

表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(全体)

- 表2(a) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(a)関連分抜粋)
- 表2(b) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(b)関連分抜粋)
- 表2(c) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(c)関連分抜粋)
- 表2(d) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(d)関連分抜粋)
- 表2(e) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(e)関連分抜粋)
- 表2(f) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(f)関連分抜粋)
- 表2(g) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(g)関連分抜粋)
- 表2(h) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(h)関連分抜粋)
- 表2(i) 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(基準1(2)(i)関連分抜粋)

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基準1の(a)-(i)の項目	関連する基準1の(a)-(i)の対応	評価方法および評価基準(改訂後)	注 釈
(A)技術内容の高度化に対応できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者。	(A-1)数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。	(c) (g)	◎ ○	<p>学科ごとに指定された下記代表科目から、各学科とも6単位以上を取得することで評価する。</p> <p>【機械工学科】 応用数学(4M②)、材料力学Ⅱ(4M②)注A1、機械工学演習(4M①)、振動工学(4M①)、確率・統計基礎(5M①)、流体力学(5M②)、応用物理(4M選①)、生物工学概論(5M①)</p> <p>【電気電子工学科】 応用数学Ⅰ(4E②)、応用物理(4E②)、数値計算法(4E②)、応用数学Ⅱ(5E②)、画像処理工学(5E①)</p> <p>【電子制御工学科】 応用数学(4D②)、応用数学(5D②)、情報処理Ⅲ(4D①)注A2、電気磁気学(4D②)、数値計算法(4D②)</p> <p>【制御情報工学科】 アルゴリズム(4S②)、熱システム工学Ⅰ(4S②)、水力学(4S②)、熱システム工学Ⅱ(5S①)、流動システム工学(5S③)、材料力学Ⅱ(4S選①)</p> <p>【物質化学工学科】 物理化学演習(4C①)、応用物理(4C②)、化工数学(4C②)、物理化学Ⅱ(4C②)、物理化学Ⅲ(5C②)</p> <p>これにより、自然科学・情報技術に関する基礎を理解し、生産デザイン工学の基礎学力を身に付けることができる。</p>	注A1:2012年度までは材料力学(4M②)として開講 注A2:2010年度までは情報処理Ⅲ(4D②)の一部として開講
(A)技術内容の高度化に対応できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者。	(A-2)自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。	(c) (g)	○ ◎	<p>下記代表科目の全てを取得することで評価する。</p> <p>専攻科専門基礎必修科目: 数学特論Ⅰ(S1②)注A3、数学特論Ⅱ(S2②)注A4、物理学特論Ⅰ(S1②)注A3、物理数学特論(S1②)注A3</p> <p>自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解決できるようになり、生産デザイン工学の基礎学力を身に付けることができる。</p>	注A3:2015年度から開講 注A4:2016年度から開講
(B)専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者。	(B-1)共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。	(c) (d) (g)	○ ○ ○	<p>学科ごとに指定された下記代表科目から、各学科とも6単位以上を取得することで評価する。</p> <p>【機械工学科】 材料力学Ⅱ(4M②)、熱力学(4M②)、水力学(4M②)、機械加工工学(4M①)、設計工学Ⅱ(4M②)、振動工学(4M①)、伝熱工学(5M②)</p> <p>【電気電子工学科】 電気回路Ⅳ(4E②)、電気磁気学Ⅱ(4E②)、電子回路Ⅱ(4E②)、数値計算法(4E②)、電子工学(4E②)、基礎制御工学Ⅰ(4E②)</p> <p>【電子制御工学科】 計算機システムⅠ(4D①)注B1、情報伝送(4D②)、電気磁気学(4D②)、電子回路Ⅱ(4D②)、信号処理(5D②)</p> <p>【制御情報工学科】 熱システム工学Ⅰ(4S②)、基礎制御工学(4S②)、図形処理工学(4S選①)、メカトロニクス機構学(4S①)、熱システム工学Ⅱ(5S①)</p> <p>【物質化学工学科】 単位操作(4C④)、無機化学Ⅱ(4C②)、食品工学(4C②)生物材料化学(4C①)、物質工学(5C②)</p> <p>これにより、設計・製作・評価・改良などの生産に関わる専門工学の基礎を理解し、生産デザイン工学の「生産」に関わる専門知識を身に付けることができる。</p>	注B1:2010年度までは計算機システム(4D②)の一部として開講

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準(改訂後)	注 釈
(B)専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者。	(B-2)自主的・継続的な学習を通じて専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。	(d) (g)	◎ ○	<p>学科ごとに指定された下記代表専門科目から各学科とも6単位以上、および専攻科で選択した重点領域の下記専門科目から各領域とも6単位以上を取得することで評価する。</p> <p>本科専門科目の中から指定した代表科目： 【機械工学科】 機械工学演習(4M①)、熱機関工学(5M②)、流体力学(5M②)、自動制御Ⅱ(5M①)、メカトロニクス工学(5M②) 【電気電子工学科】 電気回路Ⅳ(4E②)、電気磁気学Ⅱ(4E②)、電気電子工学演習Ⅰ(4E②)、画像処理工学(5E①)、基礎制御工学Ⅱ(5E①)、電気電子工学演習Ⅱ(5E①) 【電子制御工学科】 制御理論Ⅰ(4D②)、電気回路特論Ⅰ(4D①)注B2、情報処理Ⅲ(4D①)注B3、制御工学演習(5D①)、パルス回路(5D②)、電磁波・光工学(5D②) 【制御情報工学科】 設計製作(4S②)、流動システム工学(5S③)、メカトロニクス工学(5S③)注B6 【物質化学工学科】 基礎生物化学工学(5C②)、応用化学工学演習(5C②)、化学反応工学(5C①)、触媒化学(5C①)、微生物工学(5C②)、生物化学工学演習(5C①)、生物反応工学(5C①)</p> <p>専攻科重点領域専門科目： 【A領域】 環境モニタリング技術(S1選②)注B7、環境分析化学(S1選②)注B7、金属・無機材料工学(S1選②)注B7、機械材料応用工学(S2選②)注B8、電気材料工学(S2選②)注B8、資源環境情報分析(S2選②)注B8、生物工学特論(S2選②)注B8、有機・高分子材料工学(S1選②) 【B領域】 流体工学特論(S1選②)注B7、機械振動学(S1選②)注B7、電磁エネルギー変換(S1選②)注B7、バイオエネルギー(S1選②)注B7、環境・熱エネルギー特論(S2選②)注B8、発変電工学(S2選②)注B8、電磁アクチュエータ(機器)(S2選②)注B8、グリーンエネルギー(S2選②)注B8 【C領域】 ロボティクス(S1選②)注B7、電気電子回路設計(S1選②)注B7、電子デバイス工学(S1選②)注B7、情報理論(S1選②)注B7、化学反応制御学(S1選②)注B7、生産プロセス工学(S2選②)注B8、計算知能工学(S2選②)注B8、コンピュータ制御論(S2選②)注B8、量子材料学(S2選②)注B8</p> <p>自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できるようになり、生産デザイン工学の設計・製作・評価・改良など「生産」に関わる専門知識を身に付けることができる。</p>	<p>注B2:2010年度までは電気回路特論(4D②)の一部として開講</p> <p>注B3:2010年度までは情報処理Ⅲ(4D②)の一部として開講</p> <p>注B4:伝熱工学(5S選①)は2011年度まで開講。</p> <p>注B5:アクチュエータ工学(5S選③)と応用センサ工学(5S選③)は2013年度まで開講。</p> <p>注B6:メカトロニクス工学(5S③)は2014年度から開講。</p> <p>注B7:2015年度から開講。</p> <p>注B8:2016年度から開講。</p>
(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者。	(C-1)専門工学の実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。	(d)	◎	<p>学科ごと、または専攻科で実施される下記科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>工学実験(本科4年)、工学実験(本科5年)、創造工学実験(S1①)注C1</p> <p>さらに、学科ごとに指定された下記本科専門必修科目の代表科目の中から、各学科とも4単位以上を取得することで評価する。</p> <p>本科専門必修科目の中から指定した代表科目： 【機械工学科】 機械加工工学(4M①)、設計工学Ⅱ(4M②)、設計製図Ⅰ(4M②)、設計製図Ⅱ(5M②) 【電気電子工学科】 数値計算法(4E②)、電気電子工学演習Ⅰ(4E②)、画像処理工学(5E①)、電力システム工学(5E②)、電気電子工学演習Ⅱ(5E①) 【電子制御工学科】 計算機システムⅠ(4D①)注C2、情報処理演習(5D②)、制御工学演習(5D①)、制御機器Ⅱ(5D②) 【制御情報工学科】 図形処理工学(4S選①)、設計製作(4S②)、設計製作(5S②) 【物質化学工学科】 物理化学演習(4C①)、物質化学工学設計製図(4C②)、単位操作(4C④)、応用化学工学演習(5C②)、応用生物学(5C②)</p> <p>これにより、実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて問題解決の経験を積むことができるようになり、生産デザイン工学の設計・製作・評価・改良など「生産」に関わる実践的技術を身に付けることができる。</p>	<p>注C1:2015年度から開講。</p> <p>注C2:2010年度までは計算機システム(4D②)の一部として開講</p>
(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者。	(C-2)機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。	(d)	◎	<p>学科ごと、または専攻科で実施される下記科目の全ての単位を取得することで評価する。</p> <p>工学実験(本科4年)、工学実験(本科5年)、創造工学実験(S1①)注C3</p> <p>これにより、機器類を用いたデータ収集・処理を行うことで、生産デザイン工学の設計・製作・評価・改良など「生産」に関わる実践的技術を身に付けることができる。</p>	<p>注C3:2015年度から開講。</p>
(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者。	(C-3)実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。	(d) (h)	◎ ○	<p>学科ごとに実施される卒業研究(本科5年)の単位を取得することで評価する。</p> <p>これにより、実験結果から適切な資料を作り、分析し、結論を導き出せるようになり、生産デザイン工学の設計・製作・評価・改良など「生産」に関わる実践的技術を身に付けることができる。</p>	
(C)専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者。	(C-4)実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。	(d) (h)	◎ ○	<p>学科ごと、または専攻科で実施される下記科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>工学実験(本科4年)、工学実験(本科5年)、卒業研究(本科5年)、創造工学実験(S1①)注C4</p> <p>これにより、基礎的な知識・技術を駆使して実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できるようになり、生産デザイン工学の設計・製作・評価・改良など「生産」に関わる実践的技術を身に付けることができる。</p>	<p>注C4:2015年度から開講。</p>

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準(改訂後)	注 釈
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者。	(D-1)専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる。	(d)	◎	<p>下記専攻科専門必修科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>生産デザイン工学特別研究Ⅰ(S1③)注D1、Ⅱ(S1③)注D1、Ⅲ(S2③)注D2、Ⅳ(S2③)注D2</p> <p>これにより、基礎知識と基礎技術を統合し、応用できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、幅広い工学基礎と創造的技術開発力といった総合技術を身に付けることができる。</p>	<p>学習・教育目標(D)全体の総合評価： 大学評価・学位授与機構から学士号を授与されること。 また、生産デザイン工学特別研究Ⅰ(S1③)またはⅡ(S1③)および特別研究Ⅲ(S2③)またはⅣ(S2③)において、外部公開発表会での研究発表を行なうこと。</p> <p>注D1: 2015年度から開講。 注D2: 2016年度から開講。</p>
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者。	(D-2)専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。	(d) (e) (i)	◎ ○ ○	<p>下記専攻科専門必修科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>生産デザイン工学(S1②)注D3、生産デザイン工学演習(S1①)注D3、創造工学実験(S1①)注D3</p> <p>これにより、専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、幅広い工学基礎と創造的技術開発力といった総合技術を身に付けることができる。</p>	<p>注D3: 2015年度から開講。</p>
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者。	(D-3)要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。	(d) (e) (i)	○ ◎ ○	<p>専攻科で実施される下記科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>生産デザイン工学演習(S1①)注D4、創造工学実験(S1①)注D4、生産デザイン工学特別研究Ⅰ(S1③)注D4、Ⅱ(S1③)注D4、Ⅲ(S2③)注D5、Ⅳ(S2③)注D5</p> <p>これにより、知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、幅広い工学基礎と創造的技術開発力といった総合技術を身に付けることができる。</p>	<p>注D4: 2015年度から開講。 注D5: 2016年度から開講。</p>
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者。	(D-4)工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。	(d) (h)	○ ◎	<p>学科ごと、または専攻科で実施される下記科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>卒業研究(本科5年)、生産デザイン工学演習(S1①)注D6、創造工学実験(S1①)注D6、生産デザイン工学特別研究Ⅱ(S1③)注D6、Ⅲ(S2③)注D7、Ⅳ(S2③)注D7</p> <p>これにより、知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、幅広い工学基礎と創造的技術開発力といった総合技術を身に付けることができる。</p>	<p>注D6: 2015年度から開講。 注D7: 2016年度から開講。</p>
(D)幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者。	(D-5)工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。	(d) (h)	○ ◎	<p>学科ごと、または専攻科で実施される下記科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>卒業研究(本科5年)、創造工学実験(S1①)注D8、生産デザイン工学特別研究Ⅳ(S2③)注D9</p> <p>これにより、知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、幅広い工学基礎と創造的技術開発力といった総合技術を身に付けることができる。</p>	<p>注D8: 2015年度から開講。 注D9: 2016年度から開講。</p>

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準(改訂後)	注 釈
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者。	(E-1)歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。	(a)	○	<p>下記本科共通一般科目および専攻科教養科目の中から、6科目以上を取得することで評価する。</p> <p>本科共通一般科目： 近代文学(4②)、英語AⅣ(4②)、社会選択[文化交流史](4/5選②)注E1、社会選択[文化地理学](4/5選②)注E2、一般総合選択[日本文学論](4選①)、一般総合選択[英語特論](4選①)、一般総合選択[英語演習](4選①)、英語C(5②)</p> <p>専攻科教養科目： 文章表現論(S1②)注E3、英語運用能力演習(S1①)注E3、科学技術英語演習Ⅰ(S1①)注E3、夏期留学対応科目((S1選①)注E3、(S2選①)注E4)、国際社会学演習(S2①)注E4</p> <p>これにより、多様な文化を理解できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、国際社会で尊敬され、信頼される国際センスを持つコミュニケーション力を身に付けることができる。</p>	<p>注E1: 2014年度まで社会選択[史学概論](4/5選②)として開講。</p> <p>注E2: 2014年度まで社会選択[地理学](4/5選②)として開講。</p> <p>注E3: 2015年度から開講。</p> <p>注E4: 2016年度から開講。</p>
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者。	(E-2)実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。	(d) (f)	○ ◎	<p>学科ごと、または専攻科で実施される下記科目の単位を取得することで評価する。</p> <p>卒業研究(本科5年)、生産デザイン工学演習(S1①)注E5、創造工学実験(S1①)注E5、生産デザイン工学特別研究Ⅳ(S2③)注E6</p> <p>これにより、論理的に記述し、報告・検討できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、国際社会で尊敬され、信頼される国際センスを持つコミュニケーション力を身に付けることができる。</p>	<p>注E5: 2015年度から開講。</p> <p>注E6: 2016年度から開講。生産デザイン工学特別研究Ⅲ(S2③)または生産デザイン工学特別研究Ⅳ(S2③)においては、外部公開発表会での研究発表を行なうこと。</p>
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者。	(E-3)専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。	(f)	◎	<p>下記専攻科教養科目の単位を全て取得することで評価する。</p> <p>英語文献講読Ⅰ(S1②)注E7、英語運用能力演習(S1①)注E7、英語文献講読Ⅱ(S2①)注E8、科学技術英語演習Ⅰ(S1①)注E7</p> <p>これにより、専門分野の技術英文等を解読し、日本語での内容説明ができるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、国際社会で尊敬され、信頼される国際センスを持つコミュニケーション力を身に付けることができる。</p>	<p>注E7: 2015年度から開講</p> <p>注E8: 2016年度から開講。</p>
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者。	(E-4)調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。	(f)	◎	<p>下記専攻科科目の単位を全て取得することで評価する。</p> <p>生産デザイン工学特別研究Ⅳ(S2③)注E10 英語運用能力演習(S1①)注E9、英語文献講読Ⅱ(S2①)注E9、科学技術英語演習Ⅰ(S1①)注E9</p> <p>これにより、研究の目的と内容を理解した上で概要を英語で記述できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、国際社会で尊敬され、信頼される国際センスを持つコミュニケーション力を身に付けることができる。</p>	<p>注E9: 2015年度から開講</p> <p>注E10: 2016年度から開講。</p>
(E)多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者。	(E-5)英語による基本的な会話ができる。	(f)	◎	<p>下記の本科共通一般科目および専攻科教養科目の全てを取得することで評価する。</p> <p>英語C(5②)、英語運用能力演習(S1①)注E11、科学技術英語演習Ⅰ(S1①)注E11</p> <p>これにより、英語による基本的な会話ができるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、国際社会で尊敬され、信頼される国際センスを持つコミュニケーション力を身に付けることができる。</p>	<p>注E11: 2015年度から開講。</p>

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する基 準1の(a)-(i) の項目	関連する基 準1の(a)-(i) の対応	評価方法および評価基準(改訂後)	注 釈
(F)歴史・文化・社会に関する 教養と頑健な心身を持ち、技 術の社会・環境との関わりを考 えることのできる技術者。	(F-1)歴史・文化・社会に関する 知識を持ち、それらを示すことが できる。	(a)	◎	<p>下記の本科共通一般科目および専攻科教養科目の中から、3科目以上 の単位を取得することで評価する。</p> <p>本科共通一般科目：近代文学(4②)、体育Ⅳ(4②)、社会選択[法学]・ [経済学]または[経済学]・[法学](4/5選前期①・後期①)注F1、社会選 択[文化交流史](4/5選②)注F2、社会選択[文化地理学](4/5選②)注 F3、社会選択[哲学・倫理学](4/5選②)注F4、一般総合選択[日本文学 論](4選①)、一般総合選択[社会特論](4選①)、一般総合選択[体育特 論](4選①)</p> <p>専攻科教養科目：文章表現論(S1②)、北九州産業史(S1②)注F5、社 会科学特論(S1選①)注F5、北九州市社会学論(S1選①)注F5、国際社会 学演習(S2①)注F5、知的財産(S2①)注F6、技術者倫理・法規(S2①)注 F6</p> <p>これにより、歴史・文化・社会に関する知識をもち、それらを示すことが できるようになり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能 力において、地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性を含む技 術倫理を身に付けることができる。</p>	<p>注F1: 2014年度までは、社会選択 [法学](4/5選②)と社会選択[経 済学](4/5選②)の独立した科目と して開講。</p> <p>注F2: 2014年度までは社会選択 [史学概論](4/5選②)として開講。</p> <p>注F3: 2014年度まで社会選択[地 理学](4/5選②)として開講。</p> <p>注F4: 2014年度まで社会選択[哲 学(倫理学)](4/5選②)として開 講。</p> <p>注F5: 2015年度から開講。</p> <p>注F6: 2016年度から開講。</p>
(F)歴史・文化・社会に関する 教養と頑健な心身を持ち、技 術の社会・環境との関わりを考 えることのできる技術者。	(F-2)工業技術と社会・環境との 関わりを理解し、社会・環境へ の効果と影響を説明できる。	(a) (b)	◎ ○	<p>下記の本科科目および専攻科科目の中から、1科目以上を取得するこ とで評価する。</p> <p>学外実習(4選①)、長期学外実習(4選③)注F7、特別実習(S1選①)注 F8、特別実習(S2選①)注F8、専攻科特論Ⅳ((S1選②)注F9、(S2選②) 注F10)</p> <p>さらに、下記専攻科科目の単位を全て取得することで評価する。</p> <p>北九州産業史(S1②)注F9、知的財産(S2①)注F10、技術者倫理・法規 (S2①)注F10、生産デザイン工学演習(S1①)注F9</p> <p>これにより、工学技術の社会・環境への効果と影響を説明できるよう になり、広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力にお いて、地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性を含む技術倫理を 身に付けることができる。</p>	<p>注F7: 電子制御工学科、制御情報 工学科で2010年度から開講、機械 工学科で2013年度から開講。</p> <p>注F8: 2015年度に単位数を1単位 に変更。</p> <p>注F9: 2015年度から開講。</p> <p>注F10: 2016年度から開講。</p>
(F)歴史・文化・社会に関する 教養と頑健な心身を持ち、技 術の社会・環境との関わりを考 えることのできる技術者。	(F-3)技術者としての役割と責 任(倫理観)を認識し、説明でき る。	(a) (b) (d) (e)	○ ◎ ○ ○	<p>下記専攻科専門基礎科目の全ての単位を取得することで評価する。</p> <p>知的財産(S2①)注F11、技術者倫理・法規(S2①)注F11</p> <p>これにより、技術者としての役割と責任を認識し、説明できるようになり、 広い視野から問題をとらえ、解決するための「デザイン」能力において、地 球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性を含む技術倫理を身に付 けることができる。</p>	<p>注F11: 2016年度開講。</p>
(G)多様性のあるチームの中 で、成果を上げるために行動 できる技術者	(G-1)メンバーとして、自己のな すべき行動を判断し実行でき る。	(i)	◎	<p>下記の本科科目および専攻科科目の中から、1科目以上を取得するこ とで評価する。</p> <p>学外実習(4選①)、長期学外実習(4選③)注G1、特別実習((S1選①)注 G2、(S2選①)注G3)</p> <p>さらに、下記専攻科専門必修科目の全ての単位を取得することで評価 する。</p> <p>生産デザイン工学演習(S1①)注G2、創造工学実験(S1①)注G2</p> <p>これにより、多様性のあるチームの中で成果を上げるのに必要なメン バーシップを身に付けることができる。</p>	<p>注G1: 電子制御工学科、制御情報 工学科で2010年度から開講、機械 工学科で2013年度から開講。</p> <p>注G2: 2015年度から開講。</p> <p>注G3: 2016年度から開講。</p>
(G)多様性のあるチームの中 で、成果を上げるために行動 できる技術者	(G-2)リーダーとして、他者の取 るべき行動を判断し、適切に行 動させるように働きかけることが できる。	(i)	◎	<p>下記専攻科専門必修科目の全ての単位を取得することで評価する。</p> <p>生産デザイン工学演習(S1①)注G4、創造工学実験(S1①)注G4</p> <p>これにより、多様性のあるチームの中で成果を上げるのに必要なリー ダーシップを身に付けることができる。</p>	<p>注G4: 2015年度から開講。</p>